

発刊の経緯について

秋谷栄之助

『法華経』には、大乘仏教のあらゆる教えが包括的に網羅されており、東洋では「経王」すなわち最高峰の経典とされてきた。

『法華経』に説かれる生命の法理、人生の真実は、中国の天台大師の『摩訶止観』、そして日本の日蓮大聖人の『御書』(遺文)として伝えられてきた。その『法華経』の精神を今日の世界に蘇らせ、新たな生命を吹き込んだのが、創価学会の初代・牧口常三郎会長、第二代・戸田城聖会長である。牧口・戸田両先生の精神を継承された第三代会長・池田大作現創価学会インタナショナル

(SGI)会長は、『法華経』を“人間”と“生命”を解き明かした経典と位置づけ、現代に展開されている。したがって、創価学会にとって、『法華経』は最も重要な経典である。

さて、当会にサンスクリットなどの『法華経』原典の写本を刊行していく、研究と編纂の出版委員会が発足したのは、一九九四年一月である。この計画は、貴重な『法華経』原典の〈写真版〉と〈ローマ字版〉の編集と出版を目的とするもので、学術的価値として世界の仏教学研究に寄与したいとの構想である。

昨年五月に、このシリーズの第一巻として中国・旅順博物館との共同で『旅順博物館所蔵梵文法華經断簡』を出版した。この度のネパール国立公文書館所蔵の『法華經写本』(No. 421)は、その第二巻となるものである。

この経緯は、一九九二年にスーリヤ・B・シャキヤ同国トリブバン大学元副総長が来日した折、国立公文書館所蔵の『法華經写本』(No. 3-678) (複製) が贈呈され、その後、ネパールSGIのケーシャブ・B・シュレスタ理事長、創価学会国際部の川村良子副部長等の同館との交渉があった。また、東洋哲学研究所の関係者が同館を訪問していたこともあり、同研究所に編纂を委嘱し、写本研究の権威である日本の徳島大学・戸田宏文教授に〈ローマ字版〉の編集をはじめ種々ご協力いただき、この度の〈写真版〉完成の運びになった次第である。

発刊までには、ネパール王国のプルナ・バハドゥール・カドカ青年スポーツ文化大臣、国立公文書館のサニマイヤ・ラナ館長はじめ、同国の関係の方々には温かいご支援をいただき、また、戸田宏文先生には、写本の研究調査のため一九九七年十一月に同公文書館を訪問され

るなど、多大なご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

今回の〈写真版〉発刊に続き、〈ローマ字版〉を二回に分け順次出版する予定である。この一連の出版が、今後のネパール王国と日本の永遠の友好の大きな礎となり、さらには、仏教の平和思想の宣揚につながることを祈ってやまない。

一九九八年八月二十四日

(あきやえいのすけ／創価学会会長)

(本稿は一九九八年十一月十八日に出版された『ネパール国立公文書館所蔵梵文法華經写本』〈写真版〉の「あいさつ」を転載したものです。)